あけましておめでとうございます

小林哲夫

内田樹のいう「戦争間期」を生き延びてきた私はいま「後ろめたい安堵感」とある種の「焦り」に囚われている―という書き出しで，今年の賀状を書き始めて見ようと思う。

戦後70年近く，団塊の世代のトップに生まれ，私は無戦争の時代と空間を生きてきた。競争はあったものの銃を持ったことは一度もない。歴史を知り，世界を見ると，それは奇跡に近い。偶然にもその時代を生きることができた「安堵感」がある。それが「後ろめたい」のは，これからの時代，いままでのような平安な世界は保証されない，むしろ崩壊していくのではないかという予感があり，それを阻止するための努力を何一つしてこなかった自分の人生にある。

いまリタイヤー期を迎えて，自分なりにせめてバトンタッチできるものはないか，私なりに役に立つことはないかと「焦り」を覚える。

「編集者は政治や宗教を語らないほうがいい」と言われる。それは，様々な人と信頼関係を築き，温かい交流を通して，お互いに納得できる本づくりが我々の家業であり，それは常に排他的であることを本質とする政治や宗教とは真逆の世界だからである。

今年から，30年もの歴史をもつ編プロ団体・日本編集制作協会（AJEC）の役員をまた引き受けることにした。私の任務は「編集セミナー」の運営。若い人たちの編集力を向上するための勉強会を開催し，いろいろなジャンルのプロに講師をお願いする仕事だ。仕事と言ってももちろんボランティア。講師も初めて会う方がほとんど。エディットの名刺では会えなくてもAJECの理事の名刺だと受け入れてくれる。私自身も一流の人に会うのは楽しい。しかし任務は若い編集者たちのレベルアップだ。もちろんそれが世界の平和につながるなんて全く思っていない。ただ，詳しくは書かないが，反知性主義という言葉がいま流行し，それが戦争へとつながる。我々の編集業は極端に言えば，それに戦いを挑む仕事―知性主義，教養主義の運動であると言えなくもない。

賀状は年に一度の私の報告書。昨年はどうであったか。やはり書いておきたい。

まずは7月，ブックフェア（プロダクションEXPO）に参加。出展はもう17回にもなる。カプセルホテルに泊まり，すべて一人で設営・展示・接客した当時が懐かしい。9月，今年も社員旅行ができた。「屋久島&指宿／2泊3日の旅」。飛行機・バス・船そしてトレッキング，いままでにない豪華な慰安旅行だった。

個人的にはアメリカ西海岸の旅をした。サンフランシスコ→ヨセミテ公園→ラスベガス→グランドキャニオン→ロサンゼルス。アメリカはすべてに「big，large，about」だった。

エディットを43歳で創って24年，社員・スタッフも70名ほどになる。昨年から教科書の改訂期が始まった。図書教材作りはエディットが最も長く携わってきた，最も得意とする仕事。会社としてはこれから少しは「追い風」が吹く。若い人が成長するチャンスだ。私もしばらくは完全リタイアーはできない。

アメリカ西海岸の旅―グランドキャニオン（2014年5月）photo by Kobayashi

国際ブックフェア（プロダクションEXPO）（2014年7月）photo by Kobayashi

エディット社員旅行―屋久島&指宿2泊3日の旅（2014年9月）

企画・執筆・編集・制作
株式会社エディット
代表取締役　小林哲夫
http://www.edit-jp.com/

名古屋本社	〒451-0046 名古屋市西区牛島町2-10 フリーベル1F TEL:052-586-0631（代）　FAX:052-586-0632
東京オフィス	〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン727号 TEL:03-5225-0981　FAX:03-3266-5072
大阪オフィス	〒541-0041 大阪市中央区北浜3-5-19 淀屋橋ホワイトビル606号 TEL:06-6208-0501　FAX:06-6208-0502

（過去の賀状は：http://www.edit-jp.net/room/nenga.htmlにあります）